

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K04625

研究課題名（和文）非認知的能力を継続させる育ちと学びの造形教育軸 - 材料用具による保幼小中接続 -

研究課題名（英文）Research on Art Education Axis of Growth and Learning to Continue non-cognitive ability ; ECEC, elementary and Junior High School Education Connection of Materials and Tools

研究代表者

丁子 かおる (Choji, Kaoru)

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：80369694

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、就学前教育で育成される非認知的能力の育ちを、造形教育の視点から明確化し継続させることを目指した。小学校の図画工作科における造形遊びで育つ力について教師は想像し創造し、協力し試行錯誤するなどの力が育つと考えていることを西川史織との調査で明らかにした。乳・幼児の造形における非認知的能力の育ちについては、保育案を分析し、非認知的能力の育みについて年齢と能力ごとの推移を視覚化した。結果、乳幼児期前半には素材遊びなどで好奇心や興味を多く培い、幼児期後半にかけて素材・構成遊びを行いつつも、協働性や想像し、創造する目的のある活動を増加させることで、学校教育に連続させる必要性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、継続して取り組む力や、意欲、協働性などの非認知的能力の育成が就学前教育から着目されているが、小学校や中学校への継続については国内では研究はあまりみられない。また、造形教育は乳幼児を対象に比較的早期より行われているが、その遊びや題材ごとの学びにおいて育成される資質・能力は見えにくく、保育者であっても意識しにくい現状がある。そこで、乳・幼児期の造形教育で育まれた非認知的能力について、題材や遊びの種類ごとに育まれる力について、指導案から非認知能力を抽出して分析して可視化し、小学校・中学校の図画工作科、美術科に連続性を提示する。保育と教育の質を高める基盤づくりをすることが目的である。

研究成果の概要（英文）：In this study, we aimed to clarify and continue the development of non-cognitive abilities nurtured in art education from early childhood education and care. A survey conducted with Shiori Nishikawa revealed that teachers believe that children's ability to imagine, create, cooperate, and make trial-and-error skills is nurtured through Playful Art in elementary school arts classes. Regarding the development of non-cognitive abilities in Infants and toddlers, we analyzed childcare plans and visualized the transition of non-cognitive abilities by age and ability. As a result, in the first half of infancy, we cultivated a lot of curiosity and interest by playing with materials, etc., and in the second half of early childhood, while playing with materials and constructing, we increased collaborative, imaginative, and creative activities. In this study clarified the need to continue non-cognitive abilities to school art education.

研究分野：美術教育・幼児教育

キーワード：就学前教育 幼児教育 造形教育 非認知的能力 保幼小接続 乳児 連続性 美術教育

1. 研究開始当初の背景

本研究、「非認知的能力を継続させる育ちと学びの造形教育軸 - 材料用具による保幼小中接続 - 」では、就学前の造形教育で育成される継続して取り組む力や、試す力、折り合いを付ける力、意欲など非認知的能力を学校教育でも引き続き育むため、現在は校園種ごとに分けられている学びと育ちを視覚化し、乳幼児期から児童期などへつなぐ造形教育について研究を行った。

(1) 幼児教育における国際的動向

その背景として、近年、ノーベル経済学賞を受賞した J.ヘックマンの研究によるペリー就学前プロジェクトなどの紹介によって、乳児期・幼児期に非認知的能力の育ちが就学後の児童の学習意欲や継続的努力につながることで、その後の、犯罪率や年収、持ち家率といった子どもの人生そのものへの影響が分かったこと等から、幼児教育・保育において非認知的スキルに注目が集まっていることがある。ペリー就学前教育などでは、IQ のスコアにも影響があったが、8歳前後には、その差は消失するにも関わらず、乳児期・幼児期に非認知的能力は継続するとされている。この非認知的能力の育ちが就学後の児童の学習意欲や継続的努力につながることで、その後の高等教育への進学と修了、所得と失業など学歴、犯罪率や年収、持ち家率などや労働市場における成果をもたらす、人生そのものへの影響があるとされている¹。また、非認知的能力を含む社会情動的スキルは、人々の健康状態や子どもの問題行動、生活の満足度、大学進学後の利益の大きさ、自尊感情など多様な社会的成果に大きな影響があるとされている。

そして、アベセダリアンプロジェクトの成果もあって西欧の国々で、その対象となるより低年齢の乳幼児からの「質の高い保育」について重視されるようになり、こうした保育の「質」について幼保小接続としてカリキュラムの構成が言われている²。

(2) 国内における幼保小接続の現状

国内では各要領の改訂の方向性として幼児から児童、生徒の学びの力を連続させようと就学前教育から高等学校までの子どもを対象に、文部科学省は共通した資質・能力の3つの柱を立て、目標と評価の枠組みを設けて学びの連続性を確保しようとする³。このように、これまでの乳幼児期、小学校、中学校の学齢期といった区分で子どもの学びを深める視点に加えて、一人の人間として、その連続する育ちと学びの過程を大切にすることは、一過的なものではない子どもの資質・能力を生涯にわたって育み、働かせていくことになると考えられている。

しかしながら、現在の幼児教育での育ちと学びは、就学後に小学校教師の幼児教育についての知識や教育方法などの理解不足によって入学後の子どもが幼児期に培ってきた力を発揮する機会を与えられなかったり、十分に生かされなかったりすることもしばしばである。同様に児童期に生まれた子どもの主体的な学習への姿勢は、中学校入学後は影を潜ませてしまう小中接続の課題もある。子どもの育ちと学びは学校段階等間や校園種によって区分されてしまい、生涯教育的な視点や連続する子どもの育ちと学びを捉えにくい現状がある。また、幼保小接続は接続期にのみ焦点を絞って小1プロブレムの回避のみを目的にしてしまうと、幼稚園年長児と小学校1年生の子どもを担当する保育者・教員の問題として捉えられてしまう危険性を常に孕んでいる。その結果、幼児期から児童期の接続について、意識は高まったものの、学校園相互の連携した取り組みが進まず、教員にとっても教育方法や教育計画の改善といった次のステップに至らないことも多い。そのため、幼保小接続の多くでその内容は交流と配慮の必要な子どもについての引き継ぎが主な内容となってきた。そこへ、2022年より幼保小の架け橋プログラムや架け橋期が提唱され⁴、幼児教育での年長児と小学校1年生の2年間をつなぐ以前よりは少し長い期間が設定されるようになった。

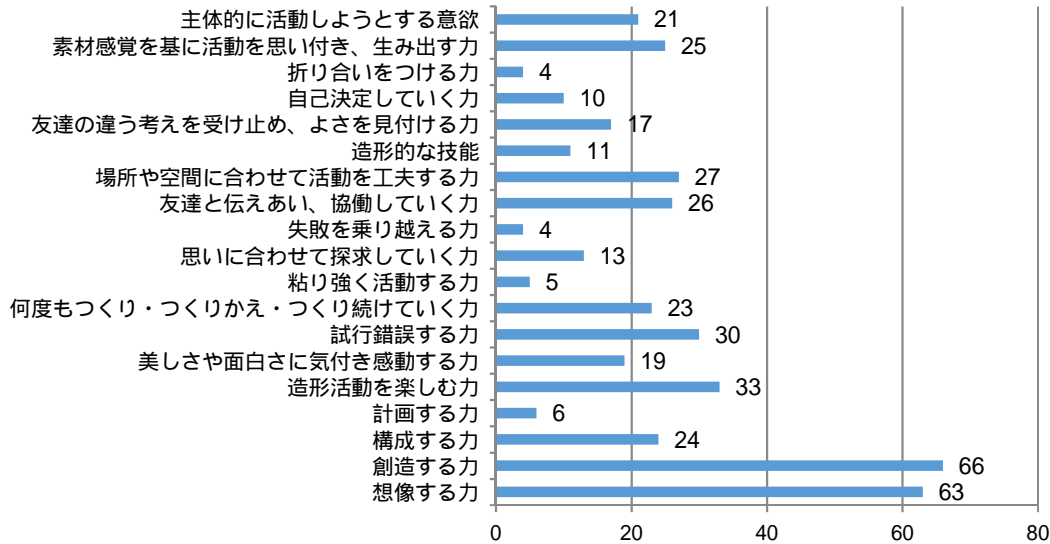
このように、幼保小接続は求められているが、幼児教育での学びがみえにくいことでつながりにくい現状がある。

2. 研究の目的

そこで、本研究では乳児や非認知的能力の育みとなる、幼児が日常的に遊びを行う造形の遊びに着目し、考察した。造形の遊びは乳児においては3つの視点のうちの「身近なものとの関わり感性が育つ」視点、1~2歳、3~5歳児では、5領域で、領域「表現」において造形表現が位置づけられている。子ども達は「身近なもの」との関わりをきっかけに、友達や保育者と関わり、身振り手振りや表情、言葉で思いを伝え、人との関わり方を学び、自らを育てていく。また、素材や環境との関わりから、例えば、積み木や色水の濃度調整など数量や科学的な法則などの予想を立てて試行錯誤を行っており、造形は「身近なものとの関わり感性が育つ」視点や領域「表現」に限定されない学びを持っている。乳幼児はこうした遊びを通しての総合的な学びの過程で、認知的スキルはもとより、その学びの根本となる好奇心、自己主張、粘り強さ、協調性等の非認知的能力の育成を同時に行っている。

これらから本研究では、質の高い造形の保育では非認知的能力の育ちを行っているかと仮定し、筆者が関わっている保育造形研究会⁵における保育案を対象として、非認知的能力の育みに当てはまる行為を抽出し分析することで非認知的能力の育ちを可視化した。また、造形の遊びの非認知的能力の育成という側面から、保育中の姿について保育案の文章から抽出して分析し、年齢ごとの変化、題材(素材を含む)による違いによる非認知能力の違いなどについて明らかにした。

図5. 「造形遊び」をすることで、特に子どもたちに育つと思う力
(育つと「思う」と答えた教員91名中(西川・丁子))



たねらいを立てて、非認知的能力の育成が同時にされていた。全体の総数としても、非認知能力の育ちが年齢に応じて増えていっており、4～5歳児で0～1歳児の3倍近くになっているなど、造形の保育の中で育まれていることが明確化された(図2)。

また、低年齢の乳幼児において、環境や素材に自ら興味を持って歩み寄り、素材を試していこうとする「興味」や「好奇心」が多くあり「開放性」が多くみられた。これは、保育者が物の色や形などを基に環境を工夫することで言葉よりも視覚的、触覚的に、つまり、感覚的に好奇心や興味を育てていた。幼児では、年長児になるほど協調性と協同性の項目が増加していた。幼児の造形では一人でそれぞれがつくるだけでなく、幼児教育として協同性の育ちが実施されていることが明確となった。

これに伴って、小学校教員に図工の分野である造形遊びで育まれている力について意識調査をした結果(図5⁷)と比べてみたところ、幼児の数値と同様に児童でも、教員が捉えられている想像性や創造性の数値が高かった。このことから、図3・4にあるように3歳を起点として想像性や創造性を育む活動をしていくことで小学校の造形での非認知的能力の育成につながっていくと考えることができる。つまり、想像性や創造性は乳児の活動を起点として、幼児期から重視して育まれることが求められる。そして、この結果、小学校教員が育まれていると感じている工夫する、試行錯誤する、楽しむといった力も想像性や創造性が次に高いことから、乳幼児期からの繰り返し取り組む誠実性や、情緒安定などで育まれた力が小学校における造形遊びでも 素材感覚を基に活動を思い付き、生み出す力や 粘り強く活動する力、 何度もつくり・つくりかえ・つくり続けていく力、 造形活動を楽しむ力などで継続されていくと考えられる。

ただし、幼児の活動で調査した共同でつくる遊びと構成遊びを比較したところ、想像性と創造性が高いのは共通であったが、協同性は共同でつくる場合が平均で 1.5 ポイントと構成遊びのおおよそ2倍であった。そして、粘り強さも1.5ポイントで構成遊びの方が3倍多く、社交性は平均0.8ポイントで1.5倍、協調性は0.8程度と2倍多くなっていた。つまり、新聞紙やペットボトルキャップなどの素材を多数使用して遊ぶ乳幼児の構成遊びから始まり、小学校での分野「造形遊び」へと継続することが、非認知的能力の育成にはただ「つくる」ことの視点に加えて必要であると考えられた。

尚、この成果は、日本保育学会ポスター発表⁸や美術科教育学会口頭発表⁹、和歌山大学紀要¹⁰で公表してきたが、今後もこうした成果を論文としてまとめて公表する予定である。また、小学校から中学生までの接続などについては、今回は探究できなかったため、研究を継続課題としておきたい。

保育造形研究会、西川詩織教諭など、研究にご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。

¹ ジェームズ・J・ヘックマン 『幼児教育の経済学』ジェームズ・J・ヘックマン, 東洋経済新報社, 2015, p. 30.

² OECD 『OECD 保育の質向上白書 人生の始まりこそ力強く: ECEC のツールボックス』 明石書店, 2019, p. 42.

³ 文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説総則編』 東洋館出版社, p. 73.

⁴ 文部科学省 「幼保小の架け橋プログラム」

URL: https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm, (2023.6.2 現在)

⁵ 保育造形研究会は、大学教員、保育者などで構成された運営委員によって運営され公益財団法人美術教育振興会による後援で保育園や認定こども園にて公開保育と研究協議などを行う研究会である。幼児造形 koyasan 集会と並び実施されている。(幼児造形 koyasan 集会; [koyasanhttps://stream6.wixsite.com/koyasan1](https://stream6.wixsite.com/koyasan1))

⁶ ブライアン・R・リトル, 『自分の価値を最大にするハーバードの心理学講義』 大和書店, 中室牧子 『「学力」の経済学』 ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2015, p. 87 や OECD/Benesse 『社会情動的スキル 学びに向かう力』 明石書

店,2018,p.53 など。ビッグファイブは、性格心理学において基本的な枠組みであり、性格特性である。性格特性と忍耐力や想像性といった力などすべてが非認知的能力といえる。ただし、重複する点も多くあったため、ここではビッグファイブに限定して取り上げることにした。

⁷ 西川史織,丁子かおる「小学校図画工作科における「造形遊び」についての調査研究：学校教育現場に定着しない要因と児童に育つ力」『和歌山大学教育学部紀要 教育科学』70,2020,pp.41-49.

⁸ 丁子かおる「乳幼児造形から保幼小接続を考える 資質・能力の変容」,2020.5.16,日本保学会,ポスター発表,丁子かおる「乳幼児の造形における非認知的能力の育ちと変容 保育案を分析してー」2021.5.16 日本保学会,ポスター発表,「乳児クラス(0,1,2歳)と幼児クラス(3,4,5歳)の造形における非認知的能力の比較 保育案を分析して」2023.5.13 日本保学会,ポスター発表

⁹ 丁子かおる「造形の遊びにみる乳・幼児の非認知的能力の育ちと学び 保幼小接続に向けて」2023.3.25 美術科教育学兵庫大会口頭発表など

¹⁰ 西川史織,丁子かおる「小学校図画工作科における「造形遊び」についての調査研究：学校教育現場に定着しない要因と児童に育つ力」『和歌山大学教育学部紀要 教育科学』70,2020,pp.41-49,丁子かおる「乳幼児の造形における非認知的能力の育ちと変容：保育案を分析して」『和歌山大学教育学部紀要,教育科学』No.72,2022,pp.85-90.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 丁子 かおる	4. 巻 72
2. 論文標題 乳幼児の造形における非認知的能力の育ちと変容：保育案を分析して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 85～90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19002/AN00257966.72.85	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 丁子 かおる、北野 美和、木下 雄生、白井 千聡、出口 静、西川 菜々子、森本 孝子、中西 大、奥村 孝、太田 英一郎、中井 麻由、青木 菜莉、太田 由美子、数見 佳子、角 忍、池谷 義輝	4. 巻 2021
2. 論文標題 幼小をつなぐ学びと育ちの連続性の共有	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書	6. 最初と最後の頁 149～154
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19002/wadaikzsh.2021.149	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白石 恵里、犬童 昭久、王寺 直子、栗山 裕至、丁子 かおる、樋口 和美、前村 晃、宮崎 祐治	4. 巻 71
2. 論文標題 トランスの創造性テストの再考と試行(2)幼児期(5-6歳児)における調査と分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19002/AN00257966.71.35	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西原 和哉、丁子 かおる	4. 巻 71
2. 論文標題 領域「言葉」の視点から見た和歌山市公立幼稚園における保育の現状と課題：ECERSを基にしたアンケート調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19002/AN00257966.71.25	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山田 伸之 , 丁子 かおる , 太田 久子	4. 巻 71
2. 論文標題 地震で被災した認定こども園への調査と考察 : 2018年大阪府北部の地震の際のたちばな保育園の例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.71.45	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丁子 かおる , 奥村 孝 , 太田 英一郎 , 的場 かおり , 青木 菜莉 , 太田 由美子 , 寺岡 麻里 , 池谷 義輝 , 北野 美和 , 木下 雄生 , 出口 静 , 西川 菜々子 , 森本 孝子	4. 巻 2020年
2. 論文標題 幼小をつなぐ学びと育ちの連続性の共有 : エピソード記録を通して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部共同研究事業成果報告書 (2020)	6. 最初と最後の頁 138-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/wadaikzsh.2020.138	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西川史織・丁子かおる	4. 巻 70
2. 論文標題 小学校図画工作科における「造形遊び」についての調査研究 : 学校教育現場に定着しない要因と児童に育つ力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 41-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.70.41	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 樋口和美, 犬童明久, 王寺直子, 栗山裕至, 白石恵里, 丁子かおる, 前村晃, 宮崎祐治	4. 巻 85
2. 論文標題 トランスの創造性テストの再考と試行 - 予備テストから見えてくるもの -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福岡女子短大紀要	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 伸之, 丁子 かおる, 馬場 訓子, 高橋 敏之	4. 巻 70
2. 論文標題 園の特色を活かした地震防災保育の事例研究: 育ち合いから学びをつなぐ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.70.33	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 丁子かおる	4. 巻 68集第2巻
2. 論文標題 造形教育における保幼小中接続へ向けて 発達の視点による表現主題の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要 - 教育科学	6. 最初と最後の頁 pp.43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 丁子かおる
2. 発表標題 乳幼児の造形における非認知的能力の育ちと変容 保育案を分析してー
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 犬童昭久, 王寺直子, 栗山裕至, 櫻井晋伍, 白石恵里, 丁子かおる, 樋口和美, 前村晃, 宮崎祐治
2. 発表標題 トランスの創造性テストの再考と試行 - 児童期(9~10歳児)における実態調査と分析の展開 -
3. 学会等名 美術科教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丁子かおる
2. 発表標題 造形の遊びにみる乳・幼児の非認知的能力の育ちと学び 保幼小接続に向けて
3. 学会等名 美術科教育学兵庫大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 丁子かおる
2. 発表標題 乳幼児造形から保幼小接続を考える 資質・能力の変容
3. 学会等名 日本保育学会（第73回大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田伸之・丁子かおる
2. 発表標題 幼稚園における地震防災保育の効果検証
3. 学会等名 日本保育学会（第73回大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 丁子かおる
2. 発表標題 乳幼児の造形が気づかせてくれる10か条
3. 学会等名 美術科教育学会乳幼児部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 樋口和美, 犬童昭久, 王寺直子, 栗山祐至, 白石恵里, 丁子かおる, 前村 晃, 宮崎祐治
2. 発表標題 トランスの創造性テストの再考と試行 - 予備テストから見えてくるもの
3. 学会等名 美術科教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 丁子かおる
2. 発表標題 乳幼児造形が育む10の力についての提案
3. 学会等名 美術科教育学会乳・幼児研究部会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 平田 智久, 小野 和, 宮野 周 (丁子かおる)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 教育情報出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 感じること からはじまる子どもの造形表現 理論と実践事例から学び, 考えようー	

1. 著者名 小林紀子・砂上史子・刑部育子編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 新しい保育講座11 保育内容「表現」	

1. 著者名 石崎和宏・直江俊雄	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 189
3. 書名 MINERVA はじめて学ぶ教科教育 初等図画工作科教育	

1. 著者名 横井志保, 奥美佐子, 渡辺桜, 長江美津子, 野田美樹, 大島未希奈, 仙石美千代, 水野伸子, 高須裕美, 小杉裕子, 王寺直子, 西原和哉, 丁子かおる, 花岡千晶, 久保葉子, 平野真紀, 鈴木裕子, 南元子, 西村志磨, 柴田智世	4. 発行年 2018年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 新・保育実践を支える 表現	

1. 著者名 丁子かおる等	4. 発行年 2023年
2. 出版社 日本文教出版社	5. 総ページ数 32
3. 書名 教育資料 <No.63> 幼保小接続はじめての一步～図工でつながる育ちと学び～	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------